



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

決勝大会・第2日 結果のお知らせ

<PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 決勝大会>

- ◇2015年5月6日(水・振休) 天候:晴れのち曇り
- ◇岐阜・花の木GC(15-17歳の部男子7018ヤードほかカテゴリー別)
- ◇出場186人

<決勝大会・第2日 概況>

高年齢カテゴリー(15-17歳、13-14歳の部男女)の第2ラウンド、低年齢カテゴリー(11-12歳の部以下の男女各3部門)の第1ラウンドが行われた。15-17歳の部男子は、前日首位タイの吉田泰基(香川・香川西高3年)が69で回り、通算7アンダー137で同じ高校のゴルフ部チームメートの西山大広(同3年)に2打差をつけて首位を守った。通算イーブンパーで高橋慧(新潟・開志学園高3年)が3位に浮上、1オーバーで森田拓海(富山・富山国際大付高3年)と昨年の日本代表の石過功一郎(兵庫・クラーク記念国際高2年)が続き、代表枠3人を巡って激戦になってきた。同女子では吉田莉生(埼玉・埼玉栄高1年)がイーブンパー72で回って通算1オーバーで首位をキープ。1打差で昨年の日本代表の小倉ひまわり(東京・日出学園高2年)、2打差で鍋島海良(熊本・国府高1年)今綾奈(埼玉・埼玉平成高2年)がつけ、代表争いは接戦になってきた。13-14歳の部では男子は小木野太優(大阪・豊中第十四中2年)が通算2オーバー、女子は後藤未有(福岡・沖学園中3年)が通算イーブンパーで、ともに首位を守った。高年齢カテゴリーは男女各3人が世界ジュニア(7月14~17日、米国・サンディエゴ)の日本代表となる。

11-12歳の部男子では、上野麟欧(りおん、兵庫・兵庫教育大付中1年)が2アンダー70の好スコアで首位にたち、3打差で森園大河(鹿児島・高山中1年)が続いている。同女子は昨年の日本代表、越田泰羽(神奈川・上矢部小6年)が自身初のボギーなしのラウンドで3アンダー69をマークし、2位長谷川せら(岐阜・稲羽中1年)に2打差をつけてトップに立った。9-10歳の部は、男子が73で回った黒田裕稀(兵庫・八条小5年)、女子は72をマークした佐藤夏恋(千葉・白幡小5年)が首位発進。7-8歳の部では、男子は矢野仁貴(愛知・東山小3年)が69、女子は酒井理琴(大阪・西淡路小3年)が80でそれぞれ首位に立っている。低年齢層は男女各2人が日本代表に選抜される。

<決勝大会・第2日 ハイライト1>

◇15-17歳の部女子 ◇第2ラウンド ◇岐阜・花の木GC(6399ヤード、パー72)

世界代表争いが激しくなった。吉田莉生が首位を守り、1打差で昨年の世界代表の小倉ひまわりが続くところへ、鍋島海良(熊本・国府高1年)と今綾奈(埼玉・埼玉平成高2年)が最終組に2打差で飛び込んできた。鍋島はこの日のベストスコアの3アンダー69をマーク。「全部良かった。バーディーパットをいっぱい外しましたが」と笑顔を見せた。ボギーなしの3バーディーに「最近引っ掛けるのが多かった」というショートアイアンによさを挙げた。「明日は欲張らないで、調子に乗らないで、集中力を切らさずやりたい」と初代表に意欲を見せた。今はスタートからショットが思うようにならず、2番でボギーが先行する苦しい展開。「焦らずにいけばペースがつかめると思った」と前半を1オーバーで粘り、後半は2



メートル前後を決める2バーディーで、1つスコアを伸ばした。「自信あります。今日みたいに精神状態をコントロールしたい」と、こちら初めての日本代表入りに意気込みをみせていた。

写真： 上／今綾奈（15—17歳の部女子）、
下／鍋島海良（15—17歳の部女子）、
写真クレジット：© I J G A 2 0 1 5



<決勝大会・第2日 ハイライト2>

◇11—12歳の部女子 ◇第1ラウンド ◇岐阜・花の木GC（5716ヤード、パー72）

越田泰羽（神奈川・上矢部小6年）が自身初のボギーなしの会心のプレーで、首位に立った。「ドライバー、アプローチ、パター…アイアンも良かった」と、全て思い通りのプレーができた様子。インスタートの17番パー5で第3打を50センチにつけて最初のバーディー。3番で2メートルを入れ、8番パー3（132ヤード）では「7番アイアンで打ったら50センチぐらいについた」と3つ目を取った。昨年は9—10歳の部で世界ジュニア代表となり、本戦では1打差で翌年のシード権を逃す6位に終わり「悔しかった」という。その後はショットの精度を高めてきた。身長もこの半年で3センチ伸びて154センチになり、飛距離も10ヤードアップの210ヤードになった。「今年も世界ジュニアに出て、今度はシードを取りたい」と意気込んでいる。



写真： 越田泰羽（11—12歳の部女子） 写真クレジット：© I J G A 2 0 1 5

<決勝大会・第2日 ハイライト3>

◇11—12歳の部男子 ◇第1ラウンド ◇岐阜・花の木GC（6399ヤード、パー72）

上野麟欧（りおん）（兵庫・兵庫教育大付中1年）が2アンダー70の好スコアをマークして、2位に3打差をつけて首位に立った。前半は「打ち急いでしまっ」と1バーディー、2ボギー。後半は「ショットの当たりがいいのは感じていたので、パットさえ入ればアンダーパーになると思った」という。その通り、後半は11番で左7メートルを沈め、13番ではグリーン手前から10ヤードをチップイン。16番では1メートルにつけて、3バーディーを奪った。予選通過後は「このコースはグリーンが固いと聞いていた」と、同じようなコースを回ったり、アプローチとパターを重点的に練習して決勝大会に臨んだ。その成果が第1ラウンドに表れ「最終日は普通にやれば勝てると思う。自分の世界に入るのは得意なので」と、自信たっぷりだった。



写真：上野麟欧（11—12歳の部男子） 写真クレジット：© I J G A 2 0 1 5